

実践④ 鹿児島県立枕崎高等学校

1 はじめに

枕崎高校は大正 14 年創立，平成 27 年に 90 周年を迎えた歴史と伝統のある学校である。平成 10 年に県内初の総合学科を設置し，「意志の数だけ道がある」のキャッチフレーズの下，生徒・職員が一丸となって，生徒一人ひとりの夢の実現に取り組んでいる。

本校図書館はワープロ室，美術室，音楽室と同じ階にあり，生徒の学校生活の動線上に位置している。一人当たりの貸出冊数（平成 30 年度）が 25 冊を超えており，図書館が生徒にとって身近な存在になっている。



館内写真

2 図書委員会の組織

図書委員会は任期 1 年，各クラス 2 名の合計 14 人で構成され，前期後期の専門委員会で，活動目標と委員長・副委員長・書記をそれぞれ決めている。専門委員会以外でも集まりが多く，年 10 回ほど話し合いの場を設けている。今年度の活動目標は前期後期とも「図書館の利用者を増やす」で，ポスターの作成，図書委員自らが本を読む，図書館イベントの実施などを具体案にあげ活動している。

3 図書委員会の具体的な取組

(1) 文化祭

- ・ステージ：朗読「仙が瀬」（枕崎民話）
- ・展示：「BOOKかるた」，「帯」コンクール
（2 年国語表現選択者も参加）

昨年度の図書委員会活動のポスター掲示



朗読風景

例年展示部門だけの参加だったが，今年度はステージ部門にも参加し枕崎の民話を朗読した。文化祭企画は図書委員にアンケートを実施し，委員長，副委員長，書記，司書の 4 人で決めている。準備から運営まで全図書委員で仕事を分担した。

(2) ボランティア

学期 1 回放課後に，2 か所でボランティア活動を行っている。

枕崎市立図書館：棚の整理，館内清掃

立神海の風こども園：読み聞かせ，園児との交流など

最初は図書委員だけの参加であったが，回数を重ねるごとに図書委員以外の生徒も応募するようになった。あまり接することがない地域の人たちや園児との交流は，生徒にとってもよい経験となっているようである。



(3) 校内読書週間

- ・校内読書統一LHR：
「帯」「タイトル」コンクール
- ・昼休み放送：
校内読書週間のイベント、
図書委員のオススメ本の紹介。
- ・図書委員選「朝読書にピッタリな本」
- ・移動図書館と本の出前
- ・すごろくで図書館脱出ゲーム
- ・校内読書週間ポスター



校内読書統一LHRは、朗読を聞きながらプリントを読み、その内容にあった「帯」「タイトル」を作成しコンクールを行った。図書委員の仕事は、朗読、各クラスでコンクールの説明、審査、「帯」「タイトル」の掲示など。

図書館イベントは文化祭と同様、読書週間で何をやりたいか図書委員にアンケートを実施し、委員長ほか3人で話し合い内容を決めた。

(4) その他の活動

- カウンター当番（週1回15分）
- 図書館だより、テーマ展示（クラス年1回）
- 蔵書点検（7月実施。全員）
- 地元書店での選書（11月実施。希望者）



図書委員のテーマ展示
（「嵐」活動休止をうけて）

蔵書点検では、パソコンではなく目録カードを使った点検をしている。カードを使う理由として、図書委員全員が一斉にできること、本の並びや請求記号を理解でき、意外な本、面白い本との出会いが生まれやすいからである。蔵書点検をしたおかげで、生徒を目的の書架まで案内できるようになり、蔵書点検で見つけた面白い本を友達に紹介していた。

4 おわりに

本校図書館は図書委員の活動なくしては成り立たない。人数が少ないので、広報・整備・工作等全ての仕事を全員で取り組んでいる。不本意ながら図書委員になった生徒でも、週1回のカウンター当番、図書館イベント等を通して、図書館と関わっていくと、次第に図書委員としての自覚が芽生えていく。長い目で根気強く育てる必要性を感じる。

図書委員は生徒と図書館をつなぐ大切な役割をもっている。司書としては、図書委員に生徒と本や図書館をつなぐにはどうしたらいいか自ら考える機会をもっと与え、出てきた図書委員の意見やアイデアをサポートしていきたい。